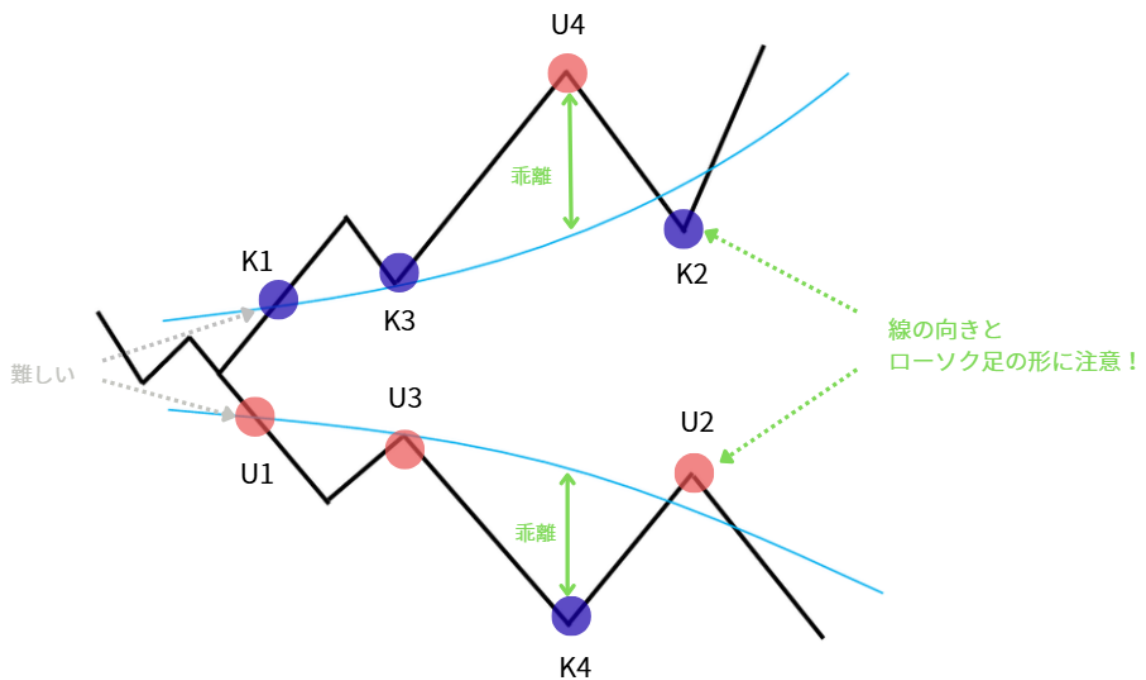


グランビルの法則



1. 売買ポイント

K,U1. 移動平均線をブレイク (難しいから基本的にやらない)

K,U2. トレンドと逆にブレイクするが、再度トレンド方向へ戻ってくる動き、深い調整
→ 線の向きとローソク足の形に注目

K,U3. 移動平均線付近で反発
→ 線の向きとローソク足の形に注目

K,U4. 短期ローソクの乖離が大きくなった時 (逆張りだから基本的にやらない)

2. 売買ポイントのメリット、デメリット

K,U1→ メリット：トレンド初動を掴める可能性がある

デメリット：トレンドの準備期間、ダマシに合う可能性、レンジの可能性

K,U2→ メリット：分かりやすい、損切りの位置が明確になる

デメリット：トレンド転換の可能性、抜けた判断が難しい

K,U3 → メリット：分かりやすい、反発すれば伸びやすい、

デメリット：深押し、戻しの可能性

K,U4→ メリット：天井・底を当てられる可能性がある

デメリット：逆張り、再現性が低い

グランビルの法則は、「価格と移動平均線の関係性にはこういう傾向がある」という相場の原理原則を知るためのもの。

その位置に来た時の価格の作られ方や、ローソク足のプライスアクションを見ずに取引しても、再現性は低くなる。

グランビルの法則から分かる事は、

- ・移動平均線の向きは相場の方向 → 上を向けば上昇バイアス、下を向けば下降バイアス。横ならレンジになりやすい
- ・移動平均線は意識される → 多くのトレーダーが見ている価格帯だから、売買が集まりやすい
- ・何度も反応した移動平均線は、さらに意識される → 過去に止まった場所ほど、次も止まりやすくなる
- ・移動平均線は結果であって原因ではない → ローソク足やダウの後付けで移動平均線が描かれる
- ・移動平均線とローソク足は乖離し続けない → 離れれば離れるほど、いずれ戻る力が働きやすくなる